

土口妻女台団地の洪水対策について

【ご意見】

妻女台団地は、昭和 50 年代に 3 年続きの水害で 130 軒程床上浸水の被害に見まわれました。この原因は、団地全体がその昔遊水地であったことに起因しています。台風 19 号のような集中豪雨が降ると心配になります。根本的な対策をお願いします。

このたびは貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。お寄せいただきました内容につきまして、下記のとおりご回答申し上げます。

【回答：建設課】

妻女台団地を含む沢山川流域においては、ご指摘のとおり昭和 50 年代に 3 年連続で浸水被害が発生し甚大な被害が及んだことは承知しております。また、令和元年東日本台風では、市内の広範囲で浸水被害が発生し、妻女台団地西側の鳴海川でも水位が上昇し、団地の一部へ浸水が及びました。当時は千曲川が水位上昇するとともに沢山川の水位も上昇し、沿川の排水機場等のポンプ運転が停止することにより、沢山川への排水ができず内水氾濫による浸水被害が発生したと推測されます。

令和元年東日本台風により甚大な被害が発生したことを受け、現在、国・県・市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めています。プロジェクトでは、河川整備、流域対策、まちづくり・ソフト施策を一体的かつ緊急的に取組むことで、令和元年東日本台風規模の洪水における家屋部の浸水防止を目指しています。

鳴海川は地形上勾配が緩く排水先の河川の影響を受けやすいため、断面の一部を大きくしたりバイパス水路を更新するなど浸水リスクを軽減させる対策をこれまで行っていきます。

令和元年東日本台風のような洪水時における抜本的な対

策としては、プロジェクトによる千曲川の河道掘削・遊水地整備や沢山川の治水対策により流下能力を改善させることが地域の浸水被害軽減につながると考えています。また、時間差での排水が行える雨水調整池の設置など沢山川流域全体での対策を検討し、大雨時の河川の流量を減らし内水氾濫を抑えるよう努めてまいります。